

平成18年度 産業建設常任委員会行政視察報告書

平成18年10月27日

1. 日 程 平成18年7月26日～28日
2. 視察先等 北海道夕張市 人口 1.5万人
北海道釧路市 人口 19万人
3. 視察事項等 夕張市 ・石炭の歴史村公園第2期整備について
釧路市 ・リバーサイド整備推進について
4. 視察者 一行 8名
委員 小野吉太郎委員長 広野 豊作副委員長 高井 保委員
安中 弘委員 樋口 博務委員 大桃 一明委員
当局 滝沢 正行都市計画課長補佐
随行 石井 信一議会事務局次長

夕張市

【市の概要】

北海道のやや中央、空知地方の南部に位置し、東西 24.89km、南北 34.71kmで、その面積は763.20km²、人口は 13,615 人となっている。

総面積の 93%は林野で、そのうち 90%は国有林で占められ、平均標高は 230mの丘陵傾斜地となっており、夕張岳（1,688 m）に源を発する夕張川及びその支流が市内のほぼ中央を貫流し、流域に沿って帯状に集落が形成されている。

明治21年に北海道庁の技師が夕張炭田の大露頭を発見したことに始まり、明治24年北海道炭鉄道会社が夕張第一坑を開坑、翌年追分夕張間の鉄道が開通し、以来その良質豊富な石炭を基幹に国内エネルギー供給基地として飛躍的發展を遂げ、昭和18年に市制を施行したところであるが、昭和36年以降エネルギー革命による炭鉄の閉山が相次ぎ、特に、昭和62年度からスタートした平成3年度までに原料炭産出を「ゼロ」とする国の第8次石炭政策によって、昭和62年10月には北炭真谷地炭鉄が、平成2年3月27日には唯一の三菱南大夕張炭鉄が閉山し、開基以来石炭とともに100有余年栄えてきた炭都夕張から石炭産業が完全に消滅した。

相次ぐ炭鉄の終閉山は、地域社会の存亡にかかわる重大な危機をもたらし、炭鉄離職者を始め、関連商工業者、一般市民など人口の流出が一段と進み深刻な過疎減少を呈している。

【事業の概要】

「石炭の歴史村」概要

1. 石炭の歴史村開発経緯

- (1) 昭和34年の石炭鉱業合理化政策「新合理化長期計画」が策定されてから石炭産業の合理化・閉山が相次ぎ地域経済は疲弊の一途をたどった。
- (2) 地域活性化施策として産炭地域の暗いイメージを払拭すべき、新たな産業創出として観光事業を検討したが、いわゆる観光地にあるべき名跡等の観光資源がなかった。そこで、かつて、夕張といえば炭都として全国的に認知されており、そして本物の坑道（模擬坑）があることから、石炭産業がいかに日本経済の発展に貢献してきたかという歴史を後世に残すことを目的に昭和54から観光開発事業に着手。
- (3) 本物の炭坑（模擬坑）を核に石炭博物館を建設して、「学ぶ・遊ぶ・憩う」をコンセプトとしたテーマパーク「石炭の歴史村」を造成（51ヘクタール）した。
- (4) 石炭の歴史村及び周辺整備事業 (単位：千円)

事業費	国庫補助	道補助	起債等	その他	一般財源
12,261,955	1,018,549	214,000	10,094,735	283,436	651,235

2. 新たな観光ゾーン（第2期整備事業）（敷地面積 17,6ヘクタール）

かつては1,764戸、9,042人の炭鉱従業員とその家族が生活していた、社光・高松地区に石炭産業の歴史的遺産を保存すべく、炭鉱長屋風の施設8館を建設予定した「ゆうばり郷愁の丘ミュージアム」構想を策定し、12年度から事業展開している。

- (1) 生活歴史館「郷愁・むかしを訪ねて」（起債事業 — 平成12年度）
- ・規模 床面積 510㎡
 - ・構造 鉄骨造 平屋建
 - ・オープン 平成13年7月20日
 - ・事業費 268,980千円
- (2) センターハウス建設（都市公園事業 — 平成13・14年度）
- ・規模 床面積 538㎡
 - ・構造 鉄骨造 平屋建
 - ・オープン 平成15年2月8日
 - ・事業費 329,932千円
- (3) 商業複合施設「シネマのバラード」（映画資料館）（中心市街地活性化事業 — 平成13・14年度）
- ・規模 床面積 1,416㎡
 - ・構造 鉄骨造 平屋建
 - ・オープン 平成15年2月8日
 - ・事業費 652,413千円
- (4) 造成費（都市公園事業 — 平成13・14年度）
- ・土地造成費（19,000㎡）
 - ・事業費 289,333千円
- ◎ 総事業費 1,540,658千円
- (内訳) 国庫支出金 503,385千円 地方債 925,400千円
一般財源 111,873千円

釧路各市

【市の概要】

北海道の東部に位置し、全国でも有数の広大な行政面積（1,362,75km²）を有している。また、飛び地を含むという地理的特性を持っている。

北部に雄阿寒岳・雌阿寒岳を中心とする山岳地帯、ここから南西方面に丘陵地帯が伸びており、こうした山地・丘陵に囲まれる形で、釧路湿原を含む広大な台地が、南側の太平洋にむかって展開する地形となっている。

また、この台地を流れる釧路川、新釧路川、阿寒川、仁々士別川、音別川等の各河川の流域には、市街地が形成されている。さらに、阿寒、釧路湿原の2つの国立公園を有し、海、山、森林、湿原、湖沼、河川など多彩で雄大な世界に誇れる大自然に恵まれている。

平成17年10月1日に釧路市、阿寒町及び音別町の3市町が、行財政基盤を強化し社会福祉等の身近な行政サービスを維持、充実するとともに、将来にわたり地域の持続的な発展を確保していくため、合併して誕生した新しい市である。

【事業の概要】

ふるさとの川整備事業 ～河川改修と一体となった川づくり～

〔釧路川の概要〕

現在の釧路川は、大正10年の新水路（現在の新釧路川）建設の際に分岐した岩保木水門から釧路港までの下流の区間で、流域面積166.9km²、流路延長16km、標高差2.8mの一級河川です。

釧路川では、釧路をイメージさせる霧や夕日など、四季折々の川の表情を楽しむことができます。

釧路川は、古くから資源の輸送路・商港・漁港として、道東の中心都市である釧路市の発展に大きな役割を果たしてきました。近年は、ウォーターフロント開発により、地域産業の振興、様々な市民活動の拠点として、にぎわいとおいのある水辺づくりが進められています。

釧路川は「ふるさとの川」として地域と強く結びついています。

〔ふるさとの川整備計画〕

釧路市街の中心を威風堂々と流れる釧路川では、幣舞橋からアセツリ川合流点までの2.4kmを対象とした「ふるさとの川整備計画」が策定され、平成13年4月に国土交通省に認定されています。

◎基本テーマ 北の大地「くしろ」自然と文化を未来につなぐ川づくり

◎整備コンセプト

災 害 ・災害に対する危機管理を備えた川づくり —— 備蓄倉庫、係船岸壁等

自然環境 ・都市と釧路湿原をネットワークする緑豊かな川づくり他 —— 河畔林等
 社会環境 ・釧路市の歴史と文化を生かし、漁業を営む人々と川を楽しむ人々がふれあ
 う（共存する）川づくり他 —— リバーサイドプロムナード等

中央広場

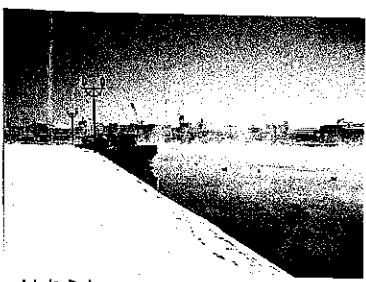


整備内容

- ・時計塔
- ・水飲み場
- ・ベンチ
- ・スロープ
- ・植栽
- ・トイレ(地区外)

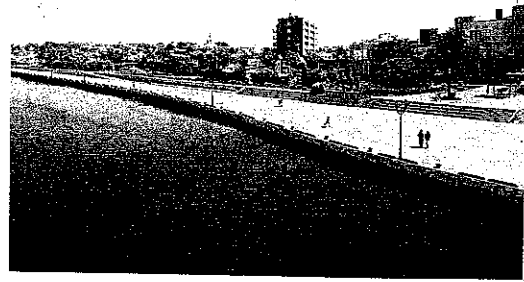


霧



けあらし

くすり広場



計画内容

- ・イベント広場
- ・あずまや
- ・ベンチ
- ・スロープ
- ・植栽

〔所見〕

今度の視察先は前文の通りですが、特に夕張市については、すでにマスコミ報道の通り歴史的にも全国的に有名な町であります。行政のありようと北海道の廣大過ぎる地での町の活性化と生活の大変さが、行政の政策面に浮き彫りになっているように思われました。

結果、国、つまり北海道開発庁と道の行政での財政面へのチェックの甘さが財政の破綻となりました事は指摘をされて当然であり、また巨額な財政赤字については、市議会の甘さも指摘されて当然ですが、全ては市だけではなく、後押しをした国、道の責任も明確であると思っている所であります。

巨額な財政赤字の早期解消を念じ、私ども市財政全般にわたり勉強をしなければと強く思っております。

また、釧路市についてはリバーサイド整備事業を押し進めており、町の中心部を流れる釧路川の河川敷の都市環境整備について推進を図り、漁港と共存した個性的な潤いのある河川空間の創出を目的として取り組んでいる所であります。

今後、河川における膨大な維持管理の問題は、道、市、市民による維持管理などについて検討中ということで、災害等の心配など悩みのある問題だと強く感じました。